

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	歴史的建築リスト整備活用小委員会	主 査 名：川向 正人
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：陣内 秀信
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検索と更新の可能な歴史的建築(国宝・重文・登録有形文化財を含む歴史的価値を有する建築)のリスト作成をインターネットによるデータベース化の形で進めるための双方向型システムの構築とその公開規定・利用ガイドラインの策定</li> <li>・ 支部・大学・研究機関・自治体等との人的ネットワークの構築、日常生活の中に生き続ける歴史的建築を広範にリスト化するためには欠かせない地域の専門家・一般住民の参加プログラムの策定、など。</li> </ul> <p>2004 年度活動計画:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学研究費・研究成果公開促進費(データベース)の助成を受け、2003年度までに入力されたデータの精査、ならびに入力情報を充実する。特に、市町村合併にともなう所在地情報の変更が急務となる。</li> <li>・ 自治体などへの入力協力(協働)依頼にあたっての各種ポリシーを策定する。</li> <li>・ 人的ネットワークの拡充(支部委員、地域委員の新規委嘱など)。</li> <li>・ データベースシステムの利用価値を高めるための機能拡張の検討。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	川向正人(東京理科大学、主査) 足立裕司(神戸大学) 池上重康(北海道大学) 伊藤毅(東京大学) 渡邊研司(連健夫建築研究室、DOCOMOMO Japan 委員) 多田善昭(多田善昭建築設計事務所) 永井康雄(東北大学) 小沼景子(文化庁文化財部建造物課) 波多野純(日本工業大学) 堀内正昭(昭和女子大学) 前村敏彰(日本実業出版社メディア局) 佐藤正彦(九州産業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	設置せず	
2004 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	遠方の委員が多く、年度初頭の今年度の方針決定の委員会に半数以上の委員が出席したが、それ以外は極力、インターネット上で委員会を開催した。 2004 年 4 月 26 日 今年度の活動計画について。新規データベースの完成報告ならびに運営について。 同 11 月 15 日 次年度の大会パネルディスカッションの申請、ならびに東北支部主催のシンポジウムの開催について。 2005 年 2 月 23 日 インターネットによるデータベースを媒体とした出版計画について。 各委員会の間には、それぞれの議題についてメールの往復により討議した。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)

	<p>① 記載データ数が3万件を超えた。</p> <p>② 次年度（平成17年度）学会大会におけるパネルディスカッション開催を申請し、採択された。日本各地で、歴史的建築のデータ整備のために尽力されている方々をパネラーにまねき、DBの整備と活用について具体的に議論したい。</p> <p>③ 東北支部主催により「災害を考慮した文化財建造物リストのデータベース構築と活用 ―行政・市民に開かれた文化財リストをめざして―」を2005年3月11日に開催した。文化財行政から多くの担当者の参加があり、活発な意見が交わされた。東北支部での本DBの浸透が期待できる。</p>
	<p>委員会 HP アドレス：<a href="http://GLOHB-ue.eng.hokudai.ac.jp/">http://GLOHB-ue.eng.hokudai.ac.jp/</a></p>
<p>目標の達成度</p>	<p>（当初の活動計画と得られた成果との関係）</p> <p>データベースの本格運用を始めて、データ入力の協力者の認定についてのシステムが、未だ完備していない（各支部により対応に差がある）ことが浮き彫りになった。また、東北支部主催のシンポジウムを受けて、特に行政との協働について、さらに策定すべきポリシーがあることも明らかとなった。</p> <p>問題点が浮き彫りになることは、データベースが活用されていることの証でもあるし、その期待の表れでもある。行政の間に少しずつ浸透していることが実感できる状況にある。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>これまでのDB化の作業をまとめた本の出版を検討中。</p> <p>大手新聞社より取材があった。</p> <p>一般社会からの本データベースに対する期待が日に日に高まっていることが、一般からのアクセスによって確認できる。</p>